

やるなら楽しく！洋書目録～理想の自習システムについて～

平成 15 年 10 月 9 日

平成 15 年度第 1 回総合目録データベース実務研修

京都大学法学部整理掛 筑木 一郎

成城大学図書館整理課 坂本 純子

関西大学図書館学術資料課 濱生 快彦

1 目的及び必要性

NII が管理する NACSIS-CAT は、サービスの開始以来順調に、登録レコード数及び参加館を増やしてきた。一方で、目録業務の外注化が一般化しつつあり、目録業務担当者の育成、もしくはスキルアップについて、なかなか適切な機会や手段の確保が困難になっている。これまで、業務の経験を積むなかで培われてきた知識やスキルの継承が難しくなってきたのではないかと思われる。またこのことは、重複レコード作成率の増加など、データベースの品質管理上の課題にも影響を及ぼしているとも考えられる。

ここでは、まったくの初心者あるいは目録業務の経験はあるが、洋書を取り扱うのは初めてという担当者が、洋書の目録業務を担当するに際し、自分で学習を行い、「他の参加館に迷惑をかけず」に「独力で」目録業務を行う能力を育成するシステムを検討したい。

2 システム構成

(1) 概略

- ・ システムは、オンラインによる学習システムと、そのシステムの補助教材である「Beginner's Tool Sheet for Cataloging」（以下ツールシートと呼ぶ）から構成される。
- ・ ツールシートは洋書業務のガイドとしての利用も想定する。

(2) ツールシート

- a) 洋書業務を行うにあたって、最低限必要な事項をコンパクトにまとめる。
- b) WebUIP の画面と NACSIS-CAT のフィールド名と説明を記入する。
- c) コーディングマニュアル、目録情報の基準、AACR2 の記述で、最低限必要な項目を精査する。ここで選択された項目は目録業務に必要なミニマムエッセンシャルズ（虎の巻）である。
- d) 洋書目録業務の初心者が常に手元において、業務の際に参照することを想定している。

(3) オンライン自習システム

- a) 学習者は、オンラインで学習が可能である。
- b) システムに蓄積される課題は、
 - ①情報源
 - ②書誌（修正が必要なもの）または新規作成用フォーム

③解答例

④解説

を1単位（以下課題単位と呼ぶ）とする。

- c) 課題単位は、PDF ファイルで作成する。⇒オンラインでの利用のほかに、印刷して、あるいはファイルとして他館との課題の交換、頒布も可能となる。
- d) 課題単位は、基準にしたがって、だれでも作成登録することが可能である。これにより、個人あるいは単館での研修プログラムを超えた、自習システムの充実を見込むことができる。
- e) 課題単位を新規に登録する場合、作成者はその課題のレベル（難易度）を5段階で決定しておく。⇒難易度を設定することで、まったくの初心者から徐々にスキルアップできる仕組みを目指す。
- f) 難易度とは別に、言語ごとに課題を選択することができる。少なくとも、英語、ドイツ語、フランス語、その他の言語の区分で課題を登録する。その他の言語の中で登録が増えると、項目を独立させる。

3 利用方法

- a) 自習者は、ツールシートを片手に、オンライン自習システムにアクセスする。
- b) オンライン自習システムのメニュー画面から、自分のレベルにあった、カテゴリを選択する。
- c) 課題単位の情報源のページと①書誌情報（修正が必要なもの=誤った、もしくは不十分なもの）か②新規作成用フォームの画面を開く。
- d) 情報源のページとツールシートを見ながら、書誌情報を入力、もしくは訂正し、解答を作成する。
- e) 解答例をみて、作成した自分の解答と比較する。また、なぜそのような解答になるのかを考える。
- f) 解説をみて、なぜそのような解答例となるか理解する。
- g) 難易度の高い課題に挑戦することにより、次第にスキルアップを図る。

4 実現に向けて

- ・ 情報源のコピーをオンライン上で公開するには、著作権処理が必要である。研修目的の閉じたネットワークであれば問題がないのかどうかを含め、タイトルページ等の情報源をオンラインで配信するに当たって、著作権処理をだれがどのように行うかは課題である。あるいは、著作権の問題が少ない古書や行政資料などから課題を作成するのも方法である。
- ・ 自習システムのナビゲーションについて、当面難易度と言語別にカテゴリを設定するが、本来は自学自習に適した他のカテゴリ設定（「複雑な階層構造の演習」など）も検討すべきである。その場合、たとえば「並列書名の演習」というようなカテゴリをつくると、あらかじめ解答のヒントを与えることになるため、慎重な検討が必要である。

質疑

- 業務でつまるどころ別に、つくってみては？また、NII の FAQ とのリンクも考えてみては？（研修生から）
- レベルは誰かが、事務局になって調整したほうがよいのでは？（研修生から）
- ツールシートはダウンロードを可能にすべきでは？（研修生から）
- いつごろまでに実現が可能か？（NII 担当者から）
- 成果普及課では、**e-learning** のサービスが必要だという話題はでていますが、ILL の例をみると、復習には使えるが、まったくの初心者には適さないのではという意見もあるため、着手できていない。（NII 担当者から）
- 今実際に使っているシステムはあるのか？（NII 担当者からの質問）⇒マニュアルをみたり、OJT で実施しているが、限界を感じている。（発表者談）
- 使いたくないという意見はなかった。（発表者からの質疑に対する研修生の回答）

以 上